



平成21年度春の叙勲

瑞宝中綬章の榮

須永 醇 名誉教授の叙勲おめでとうございます



この度、平成21年度春の叙勲受賞者として、我が法政大学名誉教授の須永醇先生が瑞宝中綬章の榮に浴せられた。この瑞宝中綬章は、国家または公共に対し功勞があり、公務等に長年従事し、成績を挙げた者を授与対象とするもので、須永先生の多年にわたる業績を讃えてのものである。尚、須永先生は、1930年3月に栃木県でお生まれになり、1953年東京大学法学部法律学科を卒業され、法政大学法学部助手 熊本



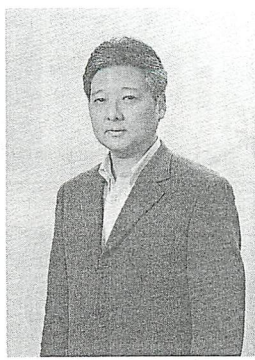
須永先生懇親会 2007.9.29

法学部人国記

久しぶりの人国記を掲載する。前回は母校法学部出身の研究者を紹介してきたが、全国の大学等で活躍している研究者はまた大勢いる。しかし、私的調査をしながら正確に記述できないため、この続きはもうしばらく時間をいただくことにしたい。そこで、今回は趣向を変えて、法学部で開講している「法律実務入門」の講義に出講いただいた母校出身の先生方を紹介してみたい。この科目は、科目名が示す通り、法学部の学生に法律実務を学んでもらうための入門講座である。初年度第1回の特別講義は遠藤光男先生であった。先生は改めて紹介するまでもなく、わが法学部が生んだ最高の法曹である。先生は、1953年3月法学部を卒業し、大学院に進学した年に司法試験合格の修了を終え、1955年4月弁護士登録をし、法曹としてスタートした。同時に、この年から当時の中村

国際政治学科

この春、第一期生社会へ



法学部長 杉田 敦

このたびは法学部長に就任しました杉田です。同窓会の皆様には、日頃から学部運営のために、また卒業生のためにご尽力いただきまして、本当にありがとうございます。本学がめざす環境は、

お蔭様で、この数年で急速に整備されてまいりました。来年度には、国際政治専攻の大学院も新設の予定で、国際政治学科が充実し、定員増加に加え、教授の陣容もさらに充実したものと相違ありません。この春、第一期生を送り出し、

とす新たな教育方針が打ち出されています。法律関係では、旧司法試験と法科大学院との両方のルートを通して、法政出身の法曹が順調に養成されつつあります。法律学科の教育内容も充実が進み、カリキュラム改革も高まっています。大学全体の中で法学部の位置も再確認されつつあります。ご承知の通り、本学にはしばらくの間、新たな分野の開拓が進み、新学部の創設が続いてきました。この新たな動きによって、本学の新たな魅力が生まれ、少人数教育などを特徴

学部新設、カリキュラム改革が進み教育内容も充実

卒業生が自らの能力を高め、活躍の機会へ

りませんが、学部新設が一段落した今、法学部などの伝統学部の底力が改めて注目されるようになってきました。本学は、従来から、国家公務員・地方公務員を多く送り出してきましたが、優秀な公務員の養成に、政府の役割が再評価の機運にあります。市場経済の重要性を前提としながらも、それが暴走しないよう監視し、さらに市場から危懼に際しているところを、政府は重要な意識を有しています。この数年は、民間の活力が強調される一方で、公務員の腐敗や非効率について告発が進んできました。卒業生の多くが活躍する民間部門についても、経済危機に際しては必要と認められることなく、自らの能力を高め、自らの活躍の機会を積極的に学生に周知徹底してまいりました。幸いにも、現生生の就職状況は、メディアの報道から比べると、ご支援ご協力を心からお願いたします。

法律実務入門

遠藤光男先生(元最高裁判所判事・弁護士)の講義は現役学生にとって何事にも勝る宝

法学部教授 金子征史

法曹としての華々しい経歴を有する遠藤先生は、昭和の岩倉事件など同僚の弁護士としての失敗談を織り交ぜながら、若い生きた法曹の果たすべき役割と姿勢について熱心に語られた。今年で4回目の迎える先生の講義は、現役学生にとって何事にも勝る宝である。きっと先生の講義を聞いた学生のなかで、将来の法曹が数多く誕生するに違いないと思われるのである。

法学部同窓会理事 千葉お茶の水医病福祉学院講師 福社社 笠原 榮作 (有) ふくろう介護サービス 取締役 高島 禮子 長生きよよか 社会作りを一緒に 法学部法律学科 昭和四五年卒業



